P 9	筑波大学における高度環境人材・環境ディプロマティックリーダー（EDL）の育成プログラムについて

辻村 真貴・若杉 なおみ・遠藤 崇浩・孫 暁剛（筑波大学大学院生命環境科学研究科）

筑波大学における環境ディプロマティックリーダー（EDL: Environmental Diplomatic Leader）の育成プログラムは、文部科学省の科学技術振興調整費により実施されている、大学院博士前期（修士）課程および博士後期課程を対象とした、高度環境人材を養成する学際的学位プログラムである。

修士課程では、水、バイオ資源、環境保健衛生の分野において高度な知識と技術を有するとともに、関連する既存の政策や問題点についても十分な理解をもち、併せて政策立案・プレゼンテーション能力をもつ、環境ディプロマティックリーダー（修士（環境科学））を育成する。

また博士課程では、高度な環境科学知識や技術を問題が生じている現場に適用でき、さらに問題に対応する政策の立案、実行、当事者間・関連諸国との地域・外交交渉、合意形成、国際社会に対するアウトリーチ等、現地の環境問題を実質的に解決できる人材：上級環境ディプロマティックリーダー（博士（環境学））を育成する。

本 EDL プログラムは、統括責任者である筑波大学学長のイニシアティブのもと、大学院生命環境科学研究科環境科学専攻・持続環境学専攻が主担当となり、同研究科関連専攻、ならびに大学院人間総合科学研究科、人文社会科学研究科等の関連研究科、そして北アフリカ研究センター、陸域環境研究センター等の関連センター、さらに研究学園都市の諸研究所、本学の海外拠点事務所等との連携で遂行されており、大学・研究科という枠組みを超えた国際的な産官学連携により実施される、筑波大学で最初の学際的学位プログラムの取組である。

EDL プログラムは、スタート時から各方面から高い評価と期待を得ており、それらを背景に、2010 年度より、修士課程 20 名、博士課程 6 名の履修生を対象に教育を開始している。

EDL プログラムでは、とくに海外インターンシップ、英語教育、保健衛生教育に力をいれており、2010 年度は、チュニジア、モンゴル、中国、インドネシア、ネパールの各国において、インターンシップを実施した。また、英語プレゼンテーション・ディベート力の涵養を目指し、相当量の学修量を課すコースワークを実施している。こうしたカリキュラムにより来年度以降、環境問題解決のためのリーダー人材を輩出することを目指している。

補足情報	筑波大学 EDL 事務局 Tel: 029-853-4958　URL: http://edl.envr.tsukuba.ac.jp/jp/